

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価 (3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領に基づいた教育課程を策定し、カリキュラム・マネジメントに取り組む。</li> <li>組織的、体系的な授業改善をとおして生徒の学びに向かう力や探究心を高める。</li> <li>学校行事や生徒会活動等を通じて、生徒の主体性・リーダーシップを育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新学習指導要領の適切な運用に向け、カリキュラム・マネジメントに取り組む。</li> <li>②主体的・対話的で深い学びを実現し、思考力・判断力・表現力を育む授業実践に向けて組織的に授業改善に取り組む。</li> <li>③学習習慣を定着させ、基礎学力の向上と、学びに向かう力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①授業時間や多展開等の授業編成を見直し、必要な人的・物的体制の確保を進める。</li> <li>②ICTを活用し、学習の基盤となる各種資質・能力を育成する。</li> <li>②教科等の指導で1人1台端末の活用を推進する。</li> <li>③探究的な学習や日常や社会との関連を重視した学習を充実させる。</li> <li>③Classroomを活用して課題等を日常的に配信し学習習慣を定着させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新2年の選択科目の配置を適切にできたか。</li> <li>①65分授業の課題を把握できたか。</li> <li>②Classroom等の活用状況。</li> <li>②1学年の授業における1人1台端末の活用状況。</li> <li>②組織的な授業改善が行われているか。</li> <li>③探究的な学習活動の実施状況。</li> <li>③Classroomでの課題配信を行った科目数。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新教育課程における3学年選択科目の見直しや65分授業の検討を行った。</li> <li>②ICTを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びを推進した。また、1学年では1人1台端末を全科目で活用し学習の基盤となる資質・能力を涵養する授業改善に取り組んだ。</li> <li>③Classroomを用いて課題配信を1学年では全科目で行い、学習習慣の定着に努めた。また、SDGsについての探究学習を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①引き続きカリキュラムの見直しや少人数学習、TT科目の見直しを進めた。</li> <li>②1人1台端末を効果的に用いた授業づくりを進めるとともに、協働学習や表現活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に取り組んでいく。</li> <li>③ICTの活用で学習の記録作成を習慣化させ、学習状況の可視化・共有化を行い、生徒自らが課題を発見し、PDCAサイクルを実践できる仕組みをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①コロナ禍で必要な体験ができなかった世代が入学してくる。カリキュラムの見直しで必要な体験をさせること。</li> <li>②9割の生徒が意欲的に授業に取り組んでいるのは素晴らしいことだ。引き続き授業改善に取り組んでほしい。また、1人1台端末の活用は緒についたばかりである。今後も工夫を凝らして取組をすすめていく必要がある。</li> <li>③学習習慣の確立と探究的な学びを積極的に進めていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①次年度についても50分授業を継続する。令和6年度に新教育課程が完成する。この間に分析を進め、改善の方策を検討していく必要がある。</li> <li>②生徒による授業評価は、「すべての授業について意欲的に取り組んでいる」90.4%、「授業の中で身についたことやできるようになったことを実感できた」86%、「授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり課題の解決方法を考えたりすることができた」86%と良好であった。来年度は2学年でも1人1台端末を用いた授業改善が求められる。</li> <li>③1学年では全教科でClassroomによる課題配信が行われた。他学年でも同様の取り組みを進め、学習習慣の定着と学びに向かう力の育成に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新教育課程の完成する次年度では、65分授業実施の是非について検討し、決定していく。また、中学校までで体験できなかったカリキュラムの実施について検討していく。</li> <li>②1、2学年における1人1台端末の効果的な活用方法やさらなるICTの活用についての検討や研修を充実させ、本校が育成したい資質・能力の向上を実現する授業改善に取り組んでいく。</li> <li>③ICTの活用により、学習状況の可視化・共有化を行い、生徒自らが課題を発見し、PDCAサイクルを実践できる仕組みをつくる。</li> </ul>
2 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒との確かな信頼関係に基づいた生徒理解に努め、基本的な生活習慣の確立、社会性を育成する。</li> <li>生徒一人ひとりの実態や特性に応じたきめ細かい支援の一層の充実を図る。</li> <li>部活動を含め、生徒が自主的・主体的に活動できる教育環境の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①全職員の共通認識のもと、きめ細かく粘り強い生活指導を通じて、基本的な生活習慣の確立を図る。</li> <li>②個々の生徒の課題を共有し、課題解決に向けて支援を行う。</li> <li>③部活動や学校行事の充実を図り、主体性、社会性、豊かな人間性を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒一人ひとりが抱える問題や困り感に目を向け、早期発見、早期対応できる支援体制の構築を図る。</li> <li>②生徒毎の情報共有を的確に行い、職員全体の共通理解のもときめ細かい支援を行う。</li> <li>③生徒の主体的活動の充実を図り、豊かな人間性を育てる。また、活動の成果を発信していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①個々の生徒に対して迅速に対応し、課題解決の道筋を示すことができたか。</li> <li>②定期的情報共有の回数と、生徒の状況に応じた対応ができたか。</li> <li>③新入生の部活動加入率が70%以上であったか。</li> <li>③学校行事について70%以上の生徒が充実感を感じることができたか。</li> <li>③学校掲示板を定期的に更新できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基本的な生活習慣の確立に向け、粘り強く指導を行った。</li> <li>②毎週定期的に教育相談の打合せを行い、生徒状況の情報把握を行うことで、課題を抱えた生徒に応じた支援を行った。</li> <li>③部活動では1年生の加入率が70%を超えた。学校行事全般で生徒が主体的に活動でき、そのサポートもできた。文化祭後のアンケートでは、「楽しめたか？」の質問に対し80%の生徒が「そう思う」と回答した。掲示板は活用できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①計画的に個別面談等を行い、課題の早期把握と職員間の情報共有に努め、課題解決に向けて指導、支援を行っていく。</li> <li>②個々の職員の動きに差がある。各学年の教育相談コーディネーターを中心に迅速な対応ができる体制づくりの再点検をする必要がある。</li> <li>③新型コロナウイルス感染症の感染拡大により学校行事の制限による経験不足を理解した上で、生徒の指導・支援を行う。掲示板を活用し、生徒活動のアピールを行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①高校では、力強く、切れ目のない質の高い教育活動を行ってほしい。</li> <li>②カウンセラーや外部の関係機関と連携し、生徒情報を的確にとらえて対応をしていってほしい。</li> <li>③中学生にとっても、このコロナ禍は失われた3年間となり、いろいろな体験活動ができていない。部活動や生徒行事等の主体的な体験を丁寧に進めていってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基本的な生活習慣の確立に向け、学年を中心に指導を行った。教育相談の対応が必要な生徒が各学年10名以上おり、支援体制づくりを迅速かつ緻密に行うことに支障が出ている。</li> <li>②教育相談担当者は、毎週打ち合わせを行い、課題を抱えた生徒に応じた支援を行ってきた。しかし、コロナ禍以降、心に問題を抱える生徒が増えてきている。</li> <li>③各種行事も開催できるようになり、生徒の活動場面も増えてきている。今後も世の中の状況に応じて行動を考え、その制限範囲内で最大限のパフォーマンスができるように企画、実行していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①今後も学年団の共通理解のもと、粘り強く指導を行っていく。</li> <li>②教育相談体制は充実しているが、さらに生徒理解と情報共有を進める。また、SCやSSWなどの外部機関とのさらなる連携を図り、支援体制を強化していく。</li> <li>③ウィズ・コロナの時代に合わせつつも、生徒が主体的に活動できる場面を作っていく。部活動運営の方法や活動計画の見直し等を進め加入率を増加させていく。また、生徒行事の企画等、生徒に考えさせる場面をつくり、主体性、社会性、豊かな人間性を育成する仕組みを再構築していく。</li> </ul>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりの社会的自立に向けキャリア発達を促進させる。</li> <li>将来に見通しを持たせ、生徒が希望進路の実現に向けた進路指導・支援の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりの社会的自立に向け、キャリア諸能力の形成を図る。</li> <li>生徒の進路希望の実現に向け、系統的な進路指導・支援の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア・パスポートを活用し、自己の変容や成長を実感できるよう組織的な指導・支援に取り組む。</li> <li>3年間を見通した組織的な進路指導体制を構築する。</li> <li>年間計画に基づいた各種(模擬)試験に対する事前指導や振り返り等により、生徒の希望進路の実現に向けて、きめ細かい支援の充実に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校種間で引き継いだキャリア・パスポートを活用し、ポートフォリオを蓄積することができたか。</li> <li>大学入試制度等についての適切な情報収集及び提供ができたか。</li> <li>希望進路の実現に向けてスモールステップを設定し、課題を解決することができたか。</li> <li>進路に対して、生徒に自己肯定感を持たせることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校で作成したキャリア・パスポートを回収した。また、行事ごとにポートフォリオを蓄積した。</li> <li>各学校の総合型選抜や学校推薦型選抜についての情報提供を行った。35%程度の生徒について進路の実現につながることができた。</li> <li>総合学力テスト等のデータを活用した振り返りや個別支援を行い、学力の向上につなげることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア・パスポートは中学校毎に様式が異なるので、活用方法の検討が必要である。</li> <li>総合型選抜、学校推薦型選抜については、生徒の進路実現に向けて、職員の共通理解を図り、組織的な支援を継続する。また、大学入学共通テストや一般選抜に向けた学力向上等の指導、支援を組織的に継続して行う。</li> <li>生徒の進路希望の実現に向け、データを活用した指導、支援を組織的に継続して行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なことを経験させる中で、生徒本人が進路適性を考えていくことが大事である。OB・OG 職業講演会や企業等を肌で感じる機会を充実させ、様々な経験をする中で本人が自己の適性を認識し、キャリア選択できるように進めてほしい。</li> <li>中学生としては、選択肢の多い学校は選びやすい。今後も情報提供を丁寧に行い、系統的な指導を実施し、生徒の希望進路の実現に向けての支援に期待している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校で作成したキャリア・パスポートを回収したが、学校ごとに様式が全く異なり、活用方法に課題がある。高校では行事ごとにポートフォリオを入力し蓄積させている。</li> <li>上級学校の各種選抜方法について、制度の変更点等の情報提供を適切に行った。その結果、総合型選抜や学校選抜型選抜制度を活用し進路決定をした生徒が35%となった。一定程度進路に対しての自己肯定感を高めることができた。</li> <li>各種学力テスト等の振り返りを毎回行い、個別支援を充実させた結果、学力向上につなげることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア・パスポートの活用方法を具体的に決定し、キャリア形成諸能力の形成に活用していく。</li> <li>新学習指導要領策定後の大学入試も間近に迫ってきている。大学入学共通テストや一般選抜等も含め、引き続き情報収集に努め、職員の共通理解を図り、組織的な支援を継続する。また、上級学校が入学者に求める資質・能力の向上に向けての指導・支援体制を構築していく。</li> </ul>
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクールの仕組みを通じて、地域、同窓会等の外部の教育資源を有効に活用する。</li> <li>外部への情報発信を積極的に展開し、開かれた学校づくりを進める。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会と連携して、コロナ禍でも可能な地域との連携を図り、地域、同窓会、保護者と協働した取組を進めていく。</li> <li>学校説明会やホームページの内容の充実を図り、本校の教育活動を広く発信する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域と協働し、学校が地域との関わりの中で、何ができるのか模索し、能動的に活動する。</li> <li>学校説明会や見学会は長期休業中をメインに実施する。また、ホームページの内容の充実と更新を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域との関わりを持ち、能動的な貢献活動ができたか。</li> <li>学校説明会や見学会に多くの人に参加したか。ホームページの内容の充実を図ることができたか。また、更新の時期が適切だったか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学年ごとに地域清掃活動を実施することができた。</li> <li>学校説明・見学会には約2000名の方が参加した。ホームページについては、多少更新できたものもあるが、全体的に滞りがちである。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域との関わりを持った能動的な貢献活動であることを生徒に周知し実施していく。</li> <li>学校説明会では好評であった校舎内見学を継続する。ホームページについては、行事等の後に速やかに更新する仕組みを構築する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域にかかわりを持つ生徒の姿を見せていくことは重要な取り組みだ。さらに工夫を重ねて能動的な取組に期待している。</li> <li>生徒の活動を積極的にアピールしていく必要がある。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域清掃は学校主導で再会できたが、その他の地域とのかかわりについては、学校運営協議会との連携が課題となっている。</li> <li>学校説明会・見学会は実施方法が改善され、希望者が全員参加できるようになった。ホームページの更新が課題として残っている。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会と連携し、いろいろな場面で地域に貢献する活動を企画し、実施していく。</li> <li>行事等では記録係を設けるとともに、ホームページ担当を全グループにおき、行事等の後にすぐに更新する体制を構築する。</li> </ol>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての職員が学校教育目標を目指し、効率的、効果的な教育活動に取り組み、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。</li> <li>職員の働き方改革を推進するとともに、事故・不祥事の未然防止に努め、県民から信頼される学校づくりに努める。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>スクール・ポリシーのもと、全職員が学校教育目標の達成に向けて教育活動を推進する。</li> <li>職員一人ひとりが事故・不祥事防止に向けて、当事者意識をもって取り組む。</li> <li>グラウンド改修工事による教育活動への影響を最小限にとどめる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>スクール・ポリシーの理念を全職員で共有し教育活動を推進する。また、広報活動に活用する。</li> <li>不祥事防止研修を定期的開催する。</li> <li>近隣の施設等を活用し、部活動の活動場所を確保する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>スクール・ポリシーをホームページや各種配付物等に掲載し、周知できたか。</li> <li>不祥事防止研修を何回実施したか。また、不祥事ゼロを達成できたか。</li> <li>部活動が十分に練習等を実施できる活動場所を確保できたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>スクール・ポリシーをホームページや学校要覧、学校案内に掲載した。</li> <li>不祥事防止研修を年間で13回実施した。成績処理について事故が発生してしまった。再発防止に向けマニュアルや体制を整備した。</li> <li>近隣学校のグラウンドや近隣有料施設も活用し部活動を実施できた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>様々な機会を通し、スクール・ポリシーに示した本校の教育理念や教育活動、カリキュラム、求める生徒像等をアピールしていく。</li> <li>今後も不祥事の再発防止に向けたシステム整備と、点検体制を強化行う。</li> <li>今後に備え、今回の経験を引き継いでいく。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>全職員がスクール・ポリシーに対する理解を深め、教育活動を行っていくこと。</li> <li>事故・不祥事のおきない環境整備に努めていく。</li> <li>今後も生徒の活動を保障する環境整備に努めてほしい。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>スクール・ポリシーの周知は可能な限り実施した。</li> <li>研修会を定期的開催してきたが、成績処理における事故が起きてしまった。成績処理の書式等を年度内に改定し、以降の事故を防止することができた。あらゆる油断を排して事故防止に努めていく必要がある。</li> <li>近隣学校のグラウンドや近隣施設を利用して部活動の活動場所を確保したが、部活動によってはかなり練習に制限がかけられてしまった。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>スクール・ポリシーの内容を全職員が熟知するとともに、社会に開かれた教育課程の実現を目指していく。</li> <li>入学者選抜制度が次年度より変更される。実施方法に合わせてマニュアルを改定していく。また、職場討議や動画による研修を充実させ、事故・不祥事を起こさせない環境を構築していく。</li> <li>生徒主体の学校運営を目指し、今後もあらゆる事態に対応できる体制を構築していく。</li> </ol>